

第5学年 社会科学学習指導案

1 単元名 水産業のさかんな地域

2 単元指導計画

時	主な学習内容
1	日本の周辺の海洋が、魚がよく採れる漁場になっている理由や、自分たちの食生活と水産物とのつながりを、調べたり考えたりして、単元を貫く課題をつくる。
2	長崎漁港の沖合漁業は、どのような工夫や努力のもと行われているのか調べ、理解する。
3	長崎漁港で採られた多くの魚が、どのような工夫や努力のもとで食卓まで届けられているのか調べ、理解する。
4	「とる漁業」にはどのような課題があるのか、調べ、考え、理解する。
5 (本時)	「つくり育てる漁業」は、どのような工夫や努力があるのかを調べ、どうして行われているのか考え、理解する。
6	長崎漁港の周辺では、どのように水産加工品が作られているか調べ、理解する。
7	岐阜県で盛んな河川漁業は、どのように行われているのか調べ、理解する。
8	岐阜県魚苗センターで働く人の仕事内容や思いを調べ、まとめる。
9	日本の水産業にはどのような課題があるのか調べ、単元を貫く課題のまとめに迫る。
10	単元を貫く課題のまとめを書き、学習したことを整理してプレゼンテーションソフトにまとめる。

3 本時について (5 / 10)

(1) ねらい

養殖業や栽培漁業のしくみを調べる学習活動を通して、そのしくみを知り、「つくり育てる漁業」が行われているのは生産が安定するだけでなく、これからの水産資源を守ろうとしているからであることを理解することができる。

(2) 評価規準

養殖業や栽培漁業の仕組みを理解し、「持続可能性」という見方・考え方を働かせ、「つくり育てる漁業」が行われているのは漁師が毎年安定して漁業を行うことができ、生産が安定するだけでなく、これからの水産資源を守ろうとしているからであることに気付き、自分の考えを表現し、まとめている。(思考・判断・表現)

(3) 学習展開

過程	学習活動	教師の指導・援助 (留意点)
導入	1 資料から、これまでの漁業との違いをつかみ、課題をつくる。 「つくり育てる漁業」は、どのような工夫や努力によって行われているのだろう。	【ICT活用の工夫】 ・あらかじめ学習支援ソフトのオンライン会議に接続しておき、必要に応じて、端末間で画面を共有して考えたり、発表したりすることができるようにする。
	2 個人で追究する。 3 分かったことを交流し、ことば「養しよく・さいばい漁業」を確認する。 ・ いけすの中で育てている。 ・ 他の魚を噛んで傷つけてしまわないように、とらふぐの歯切りをしている。 ・ 魚の卵をかえして、川や海に放流している。	【ICT活用の工夫】 ・ ICT端末上で共有している追究資料に書き込んだり、新たな資料を調べたりして追究している姿を価値付ける。 ・ 机間指導を通して、根拠を明確にして追究するよう声をかける。 ・ 必要に応じて、ペアでの交流を位置付ける。
展開	4 どうして「つくり育てる漁業」が行われているのか考え、話し合う。 ・ 魚がとれなくなる心配が少ないからじゃないかな。 ・ 前の時間に魚をとり過ぎる問題があったから、増やしているのかもしれない。 ・ 養殖業で働く人が増えてきているのも理由じゃないかな。	・ 根拠を明確にしたり、既習内容とつなげたりして話す姿を価値付ける。
	5 自分でまとめを書く。 「つくり育てる漁業」は、いけすの中で育てたり、たまごをかえして川や海に放流して自然の中で育ててからとったりしている。それは、限られた水産資源を守り、魚を安定してとることができるようにするための。	【ICT活用の工夫】 ・ 想定外のトラブルがおきたとしても、その時できる最善の方法を考えて活用する姿を価値付ける。
終末		